

# 当院の無痛分娩時の麻酔について

当院では出産の選択肢の1つとして「無痛分娩」を行っております。

分娩時に麻酔を行うことで、陣痛による痛みを和らげ、緊張や恐怖などからくるストレスを軽減し、分娩を円滑に進めることができます。

原則「計画無痛分娩（日程を陣痛開始前に決めて無痛分娩を行う方法）」となります。

## 対象

全妊婦さん

以下のような場合は、無痛分娩が出来ない可能性があります。

- 血液凝固機能障害、抗凝固剤使用
- 強い脊椎の変形のある方

## 分娩に関わる神経分布

子宮収縮に関する神経は、 $T_4 \sim T_{12}$ の遠心性神経で、

子宮や産道の知覚は  $T_{10} \sim L_1$  と  $S_2 \sim S_4$  の求心性神経によって支配されている。

分娩Ⅰ期の痛み（主として子宮収縮と頸管の進展の由来）： $T_{10} \sim L_1$ の範囲

分娩Ⅱ期の痛み（主として会陰の進展の由来）： $S_2 \sim S_4$ の範囲

## 方法

無痛分娩の麻酔方法はいくつかありますが、当院では一般的な方法である**硬膜外麻酔**を行います。

硬膜外麻酔は効果や安全性が高く、最も代表的な麻酔法です。

脊柱（背骨）の骨の隙間から針を挿入し（表面麻酔します）、硬膜外腔というところに直径 1 mm 以下のカテーテルを留置します。このカテーテル（管）から麻酔薬を入れることにより陣痛の痛みを軽減します。

無痛といっても痛みを完全に取り除くのではなく、いきむことが出来る力を残すことで自然に近い分娩が可能となります。

使用薬剤は作用時間が比較的長いロピバカイン（アナペイン）か、レバプピバカイン（ポプスカイン）とフェンタニルを使用します。

